

子ら科学の不思議さ触れ

山科で催し 植物の色素変化実験

子どもたちに科学への興味を深めてもらう夏休みのイベント「身近な夏の不思議体験」が28日、京都市山科区の京都薬科大で開かれた。地元の小学生約90人が白衣や保護ゴーグルをつけて科学者気分を味わいながら色水実験を行い、植物に含まれる色素の不思議な性質に触れた。

同大学と山科区「はぐくみ」ネットワーク実行委員会が毎年、区内の小学4～6年を対象に開いている。

今年は、ムラサキイモやナスなどに含まれる色素



ムラサキイモ液の色が変わる実験を行う児童
(京都市山科区・京都薬科大)

「アントシアニン」を題材に実験。アルカリ性や酸性に反応して色が変わる性質があり、子どもたちはムラサキイモの粉を溶かした紫色の液をつくり、レモン汁など身近な6種類の液を垂らして色の変化を調べた。

ムラサキイモ液はレモン汁や酢など酸性の液を垂らすと赤色に、虫刺され薬や重曹などアルカリ性の液では青色や緑色に一瞬で変化し、子どもたちが驚いた表情を見せた。大宅小5年の大谷真緒さん(10)は「色が変わる様子がとても面白かった。今回実験できなかったジュースとかを家で試してみたい」と話していた。

(川辺晋矢)